

令和8年3月期

決算概況

のと共栄信用金庫

令和8年3月期 決算の概況

1. 損益の概要

● コア業務純益が3期連続の増益

政策金利の引上げに伴う利回りの上昇により預金利息等の資金調達コストが前期比401百万円(227.60%)の増加となったものの、運用利回りの改善に加え、復興にかかる地公体の資金需要が旺盛であったことから貸出金残高が大きく伸び、資金運用収益が700百万円(17.50%)増加しました。その結果、資金利益が300百万円(7.88%)増加したことで、賃上げやシステムサーバのデータセンターへの移設による経費の増加を吸収し、本業の利益を示すコア業務純益は、13億6,900万円と3期連続の増益となりました。

また、被災事業者の復興工事にかかる補助金のつなぎ資金に積極的に応需したことから、貸倒引当金が一時的に増加したものの、有価証券関係損益が改善したことから経常ベースでは2期連続の増収増益となりました。

<単位：百万円>

	令8年3月期	令和7年3月期	増減※	増減率※
経常収益	5,822	5,178	643	12.43%
経常費用	5,052	4,471	580	12.98%
コア業務純益	1,369	1,075	294	27.32%
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	1,264	948	315	33.31%
資金利益	4,114	3,814	300	7.88%
資金運用収益	4,701	4,001	700	17.50%
役務取引等利益	199	157	41	26.12%
預かり資産関係収益	107	90	16	18.22%
経費	2,968	2,907	61	2.10%
人件費	1,688	1,658	30	1.81%
物件費	1,152	1,127	25	2.22%
有価証券関係損益	81	▲184	265	黒字化
有価証券関係収益	467	444	22	5.00%
有価証券関係費用	385	628	△243	△38.67%
不良債権処理費用※	649	164	485	295.47%
経常利益	770	706	63	8.98%
当期純利益	506	432	74	17.18%

※不良債権処理費用は、個別貸倒引当金や貸出金償却等の個別債権に対する処理費用に、一般貸倒引当金、偶発損失引当金および償却債権取立益を加減しています。

※増減(率)欄のマイナス符号は、当該項目の減少が業績の良化要因となる場合は「△」を、悪化要因となる場合は「▲」を付しています。

2. 預貸金等の概要

●預金残高は、前期末比 31 億 1,900 万円 (0.92%) 増加し 3,411 億 5,300 万円となりました。

創立 110 周年記念定期預金、復興定期預金、懸賞品付き定期預金等の企画商品を積極的に取り扱ったことに加え、復興関連工事代金の入金等もあり、要払性預金が 10 億 1,400 万円 (0.54%)、定期性預金が 21 億 400 万円 (1.38%) 増加しました。

なお、人格別では法人預金が増加したのに対し、相続による流出や高利回り商品へのシフトにより個人預金は減少しました。

<単位：百万円>

	令和 8 年 3 月期	令和 7 年 3 月期	増 減	増減率
預 金 残 高	341,153	338,033	3,119	0.92%
定期性	154,066	151,961	2,104	1.38%
要 払 性	187,086	186,071	1,014	0.54%
個 人	233,495	236,203	▲2,707	▲1.14%
個人事業者	25,663	25,541	122	0.47%
法 人	67,191	61,165	6,025	9.85%
公 金	14,802	15,122	▲320	▲2.12%

●貸出金残高は、前期末比 92 億 8,200 万円 (5.08%) 増加し 1,917 億 9,800 万円となりました。

資金の用途別では、地公体向け融資は大幅に増加したものの、復興関連工事代金の入金による短期資金の返済もあり、事業性融資は減少しました。

なお、預貸率は 2.23 ポイント上昇し 56.22%となりました。

<単位：百万円>

	令和 8 年 3 月期	令 7 年 3 月期	増 減	増減率
貸 出 金 残 高	191,798	182,516	9,282	5.08%
個人ローン	31,989	31,847	141	0.44%
事業性資金	117,897	121,462	▲3,565	▲2.93%
地公体向け	41,911	29,205	12,705	43.50%
預 貸 率	56.22	53.99	2.23	4.13%
事業性先数	3,682	3,761	▲79	▲2.10%

●預かり資産残高は、前期末比 35 億 4,600 万円 (12.52%) 増加し 318 億 6,200 万円となりました。

<単位：百万円>

	令和 8 年 3 月期	令和 7 年 3 月期	増 減	増減率
預かり資産残高	31,862	28,316	3,546	12.52%
投資信託	9,262	7,903	1,359	17.19%
保 険	14,399	14,064	335	2.38%
国 債	8,201	6,349	1,852	29.16%

3. 不良債権額（信用金庫法開示債権および金融再生法開示債権）の概要

●不良債権額は、復興のためのつなぎ資金を積極的に応需したことから、前期末比 3 億 9,300 万円 (2.52%) 増加し 159 億 2,800 万円となりました。

一方で、不良債権比率は 0.17 ポイント低下するとともに、保全率では 3.32 ポイント上昇し、共に改善しました。

<単位：百万円>

	令和 8 年 3 月期	令和 7 年 3 月期	増 減	増減率
不良債権額	15,928	15,535	393	2.52%
総与信残高	195,463	186,723	8,740	4.68%
不良債権比率	8.15%	8.32%	△0.17	△2.04%
保全額	13,256	12,413	842	6.78%
貸倒引当金	5,853	5,172	681	13.16%
担保・保証	7,403	7,241	161	2.23%
保全率	83.22%	79.90%	3.32	4.15%

4. 有価証券の評価損益の概要

●政策金利の引上げにより有価証券の評価損がネットで前期末比 21 億 5,100 万円 (31.01%) 増加しました。

<単位：百万円>

	令和 8 年 3 月期	令和 7 年 3 月期	増 減	増減率
評価損益	▲9,083	▲6,932	▲2,151	31.01%
評価益	1,423	676	747	110.62%
評価損	10,507	7,608	2,898	38.09%

5. 自己資本比率の概要

●金融機能強化法のコロナ特例を活用した 96 億円の資本強化を行ったことにより、自己資本額が前期末比 100 億 4,100 万円 (59.79%) 増加し、加えてリスクアセットが 62 億 5,800 万円 (4.57%) 減少したことにより、自己資本比率は 8.27 ポイント上昇し 20.53%となりました。

(国内基準)

<単位：百万円>

	令和 8 年 3 月期	令和 7 年 3 月期	増 減	増減率
自己資本額	26,835	16,794	10,041	59.79%
普通・優先出資等	26,059	15,982	10,076	63.04%
リスクアセット ※	130,672	136,931	▲6,258	▲4.57%
自己資本比率	20.53%	12.26%	8.27	67.45%
普通・優先出資等比率	19.94%	11.67%	8.27	70.86%

※リスクアセットとは、貸出金等の資産をリスクの大きさに応じて再評価した資産金額です。

6. 出資配当率

●通常配当率を前年比 1.0%上乗せし 3.0%としました

	令和8年3月期	令和7年3月期	増減
出資配当率	3.0%	3.0% (記念配当1%含む)	0.0ポイント

※令和7年3月期は、創立110周年の記念配当として1%を上乗せしました。

7. 令和9年3月期業績予測

●引続き政策金利の引上げが予測されるなかで、資金の調達コストは増加するものの、一方で運用利回りの上昇も見込まれることから、資金利益は増益となり、コア業務純益も4期連続の増益になると見込んでおります。

<単位：百万円>

	令和9年3月期	令和8年3月期	増減	増減率
経常収益	6,066	5,822	243	4.17%
コア業務純益	1,467	1,369	97	7.14%
コア業務純益 (投資信託解約損益を除く)	1,467	1,264	203	16.10%
経常利益	873	770	103	13.44%
当期純利益	480	506	▲26	▲5.16%

以上